CASBEE® 名古屋　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2024年版、名古屋市独自の地球温暖化対策等マニュアル2026　使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2026(v1.0)

1-1 建物概要

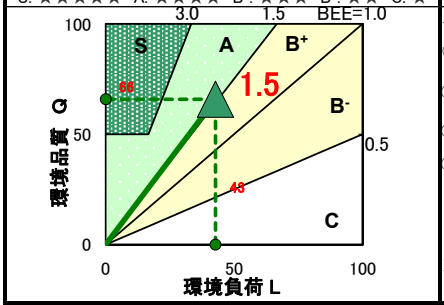
建物名称	(仮称)名古屋市中村区椿町プロジェクト	階数	地下1階、地上14階
建設地	愛知県名古屋市中村区椿町 1511-1、1511-2、1512-1、1512-2、1512-3、1512-4、1512-5、1513-1、1513-2	構造	S造
用途地域	商業地域	平均居住人員	700 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,800 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年11月　予定	評価の実施日	2026年10月7日
敷地面積	951 ㎡	作成者	
建築面積	754 ㎡	確認日	2026年10月7日
延床面積	10,334 ㎡	確認者	

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.5

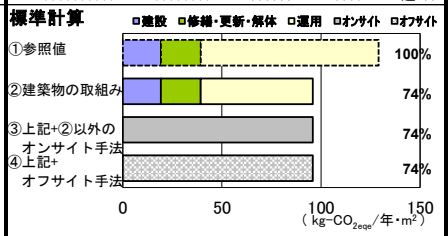
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)

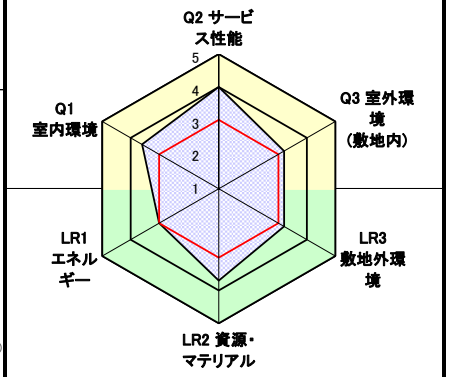


30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたWLC 排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEI+で表示しています。

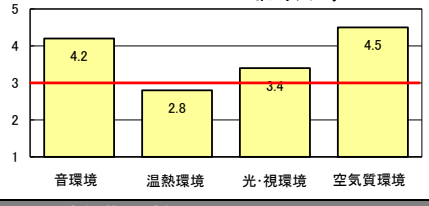
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



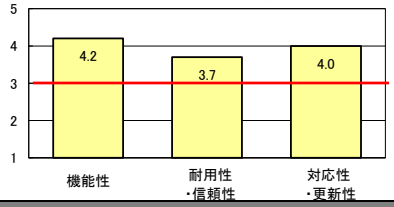
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.6

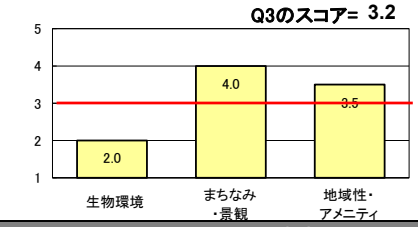
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.6



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 4.0

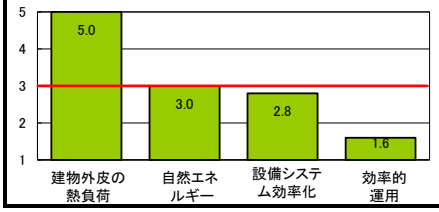


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 3.2

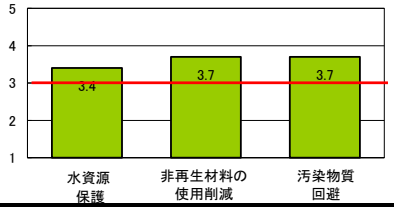


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.2

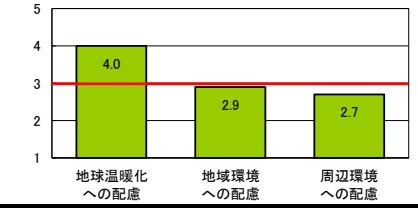
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.0



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.7



LR3 敷地外環境　LR3のスコア= 3.2



3 設計上の配慮事項

総合

多数が利用する高層テナントオフィスとして、入居者の快適性を確保しながらエネルギーの高効率化を図っている。限られた敷地面積の中で、維持管理・メンテナンス性に配慮したプランニング・外装・内装計画とし、屋上緑化を設けることで入居者のリフレッシュにも配慮している。1階の外壁面をセットバックするとともに建物ボリュームを低層部と高層部に分割することで、圧迫感の軽減と周辺との調和を計画している。

その他

Q1 室内環境

床・壁仕様に配慮して、音環境や温熱環境の向上を図っている。温熱環境に関しては空調をゾーン別に制御できるようにすることで、ゾーンごとの環境に応じた空調制御を計画している。空気質に関しては☆☆☆☆を全面的に採用し室内の化学汚染物質を抑えるとともに、外気取入口は敷地周辺環境を勘案して汚染源の少ない幅員の大きな道路側に設けている。

Q2 サービス性能

入居者が快適に利用できるように天井高さや平面的な広さを確保するとともに屋上緑化をすることでリフレッシュスペースも設けている。建築部材、設備部材は可能な範囲で更新間隔が長いものを採用し、更新の際にも躯体に影響させずに更新できるように配慮している。

Q3 室外環境（敷地内）

屋上緑化を設けることで、限られた敷地面積の中でなるべく緑の量の確保に配慮している。
周辺のまちなみが雑多なエリアであるため、その多様性を受け止められるよう1階の外壁面をセットバックし、内外の緩衝帯とするとともに周囲の人々を誘因する計画としている。また、低層部と高層部でボリュームを分割することで周囲への圧迫感の軽減に配慮している。

LR1 エネルギー

日射遮蔽型のLow-E複層ガラスや、外壁・屋根面の断熱性能に配慮することで、建物外皮の熱負荷抑制を図っている。

LR2 資源・マテリアル

有害物質を含まない材料を使用するとともに、断熱材の仕様に配慮しA種１H相当（ノンフロンタイプ）を採用することでフロン・ハロンの回避を図っている。

LR3 敷地外環境

公共下水の負担軽減に配慮し、法的には設置する必要のない雨水貯留槽を設けている。また駐輪場・駐車場設置とともにマイカー通勤の禁止運用をすることで、計画建物に関連する車両台数を低減し、駐車場入口を主要幹線道路側には設けないことで周辺の交通負荷抑制を図っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE名古屋 評価結果

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋市中村区椿町プロジェクト

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2026(v1.0)

重点項目			評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策					3.1
LR1	エネルギー		3.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮		4.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.05	
2. 自然共生					2.5
Q3.1	生物環境の保全と創出		2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮				
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.045	
3. 循環型社会					3.6
LR2.1	水資源保護		3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減		3.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2		2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 ＝ 3.1



2. 自然共生

評価点 ＝ 2.5



3. 循環型社会

評価点 ＝ 3.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{\text{(評価点×全体に対する重み)の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 I 2)地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4)地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。